この八丁平を含む約500haの市有林（一部民有林）に昭和44年度から尾越・久多間の林道開設が始まり，昭和45～46年に八丁平の方向に工事が進められてきましたので，当山岳連盟から左京区長あてに「今後の開発に対する質問書（47.3.23）を提出しましたところ「計画では林道は八丁平を通過する予定（47.4.4）」との応答がありましたので，直ちに「林道開設は八丁平を避ける方法を配慮ねがいたい」旨申出ましたところ「検討する」とのことで，その後，中断状態になっていました。

この間，八丁平の現地には，京都市経済局山林耕地課によって「ここ八丁平は，高層湿原温帯林の自然林の地域です。貴重な市民の財産として，又私達にとって，かけがえのない自然を守るためご協力をお願いします」と記載した標板を数カ所に建植されました。

現地におけるこうした標板の建植は，京都市当局が「市民の森」として八丁平のすぐれた自然の保全に積極的な姿勢を示されたものと理解し，私たちも一般登山者やハイカーたちにも広くこの地の自然保護を訴えてきました。

ところが昨年10月に至り，林道の中断地点からの延長工事が再開され，その指向方向は八丁平にあることが判明しました。

当山岳連盟としては，八丁平の高層湿原を中心とする自然林一帯の現状保全を強く念願していますので，「京都府下における貴重な八丁平高層湿原保全のため，林道の延長が八丁平を通らないこと」を要望いたします。

以上，要望について何分のご回答をお願いいたします。

新刊紹介

自然かんさつ入門

紫田　敏隆 著　小学館

183pp　450円

ものすごい情報量である。その質を問わなければ，現代の子供たちは，昔の学識者をはるかにしのいでいるだろう。といって，決して偉くなってはいない。

わたしたちは，情報量のあまりの多さに幻惑され，自分の頭で考え，自分の目でものを観ることを忘れてしまったのではないだろうか。

抽象的な理念を頭から頭へ移すことが，教育といわれていないだろうか。

いま一匹の動物が暗闇から誕生する。触れる。徳く。見る。味わう。彼が経験できるのは，あくまでも具体的なものである。

具体的なものは，それ一個を切り離して取りあげると，日常的な平凡なものに過ぎない。しかし，具体的なものが，頭の中に積み重なると，それは生き生きとした思想になる。その思想を培かって欲しいという著者の願いがひしひしと感じられるのがこの本である。

著者は，はげしい勢いで都会化が進みはじめた20年前から，三浦半島自然保護の会を主催されている。自然に接する機会が少ない子供を野外に導き，できるだけ具体的なものに触れさせることは，当時としては，先駆的な催しであったにちがいない。運よく，すばらしき同志にめぐまれたこともあり，様々な試行錯誤の結果得られた自然観察へのいざないは，今では，全国各地にくりひろげられている自然観察会へと広がっている。この本は，その結果のエッセンスとして，こども向けに書かれている入門書ではあるが，こどもが自分でこつこつと観察していくことを踏まえ，観察グループを組織して，皆で協力してやってみようという組織的な観察にも，目をむけて書かれている点では，今迄になかったものである。ただ，そのために個々の観察が，環境別の概要的な方法のみの記載に終り，20年間に培われてきた様々な観察事項のポイントのおさえかた，気のつけかたなど，実際に著者らが得たなま身の資料については，あまり触れられておらず，若干教科書的になっているのは残念だ。

まして，五感を通して自然観察会をやろうというわりには，用具の使用，服装の注意などの指摘が多すぎる。できるだけ，安全な自然観察を行うために，実践を通して得た教訓を生かしたい意図はくみとれるが，ちょっぴり危険性が含まれていた方が，自然観察らしいのではと思うのは私だけだろうか。危険を感じつつ観察をする方が五感を育成するうえで重要なことだと思う。

されど，全国で培われ，練りあげられてきた自然観察の方法を集大成して，わかりやすくしあげた点で，この本の意義は大きい。

著者自身，各地の自然観察会を催している人々に早く自分たちをのり越えていってもらいたいという願いをこめて書かれたにちがいない。

（中田千佳夫）

☆　　☆

☆　　☆